The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	バスケットボールにおける審判の判定と検証要求権保持との関係
Author(s)	神橋, 龍ノ介; 河合, 求真
Citation	大阪大学経済学. 2025, 74(4), p. 63-63
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/100643
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

【2024年度　学生懸賞論文受賞作　優秀賞要旨】

バスケットボールにおける審判の判定と検証要求権保持との関係

神橋龍ノ介　河合求真

本研究では，不作為バイアスに影響を与える要因を，NBA のプレーに対する審判の判定とその正誤のデータ等を用いて検証したものである。研究結果として，僅差かつ試合終了間際で判定の正誤が後日検証・公表されるような状況での，審判がファール判定をすべきであるのにファール判定をしないという不作為バイアスの大きさは全体で 20.5% であることを示した。また，不作為バイアスを発生させる 2 つの要因を実証的に明らかにした。第一は，観客がいるその場で判定の正誤が検証される可能性があるという要因（検証回避要因）であり，不作為バイアスを 2.1% ポイント大きくしていた。第二は，観客にその場で見られているという要因（目線要因）であり，不作為バイアスを 5.9% ポイント大きくしていた。